執筆者情報

又吉 幸嗣 (またよし ゆきつぐ)

那覇市市民文化部文化財課開発調整グループ 主任学芸員

多くの方からご助力をいただき、令和5年度に特別展を行うことができました。本展では、土器にまつわる過去から現代までのストーリーを伝えるというねらいもありました。見た方にとって本展が沖縄の土器に関心を持つきっかけとなれば、担当した者として大変うれしく思います。

吉田 健太 (よしだ けんた)

那覇市市民文化部文化財課埋蔵文化財グループ 主任学芸員

前号に引き続き、本誌ではニシヌ窯跡出土の厨子の詳細報告を掲載させて頂きました。これまでに沖縄県内で積み上げられた厨子の編年研究を踏まえることにより、ニシヌ窯跡の様相も少しずつ明らかとなってまいりました。今後も、発掘調査に携った方々の思いを引き継ぎ、資料整理が完了しました器種を順次報告させていただければ幸いです。

倉成 多郎 (くらなり たろう)

那覇市立壺屋焼物博物館 学芸員主査

本年は、各職員の研究能力の底上げを図ることを目的に、職員による館蔵資料の紹介を行っています。拙稿では、山口全則と壺屋陶工の間に接点があったことを確認していますが、最終的な目的は、山口が柳に寄贈した赤絵皿の制作年代を確定させることであり、その補助資料になるものと考えています。

當銘 由嗣 (とうめ よしつぐ)

那覇市立壺屋焼物博物館 専門員主査

令和6年度より、長年従事した市民文化部文化財課埋蔵文化財グループや開発調整グループでの業務から壺屋焼物博物館グループへ異動となり、不慣れな業務ゆえに年度初めは戸惑うことも多く、足元がおぼつかず、その時の記憶があまりありません。最近ようやく当館での業務にも多少慣れてきたように感じますが、まだまだの部分も多分にあります。今後も、少しずつ当館での業務に精神的・身体的に馴染んでいきたいと思えます。

田川 恵美 (たがわ えみ)

那覇市立壺屋焼物博物館 会計年度任用職員 教育普及員

教育普及員の名の下に出前博物館事業を担当させてもらい、壺を抱えてあちこち奔走する日々を送って5年が経ちました。最近になってようやく、人前で話す時に足が震えなくなったような気がします。現場ばかりでこれまで論考らしい論考を手掛けたことがほとんど無かったので、拙い文章なのは何卒ご容赦ください。